

横浜市社会教育コーナー第2回指定管理者選定評価委員会委員会会議録	
日 時	令和6年7月30日(火) 10時00分から12時00分まで
開催場所	横浜市社会教育コーナー アートルーム
出席者	<p>【委員】</p> <p>有元委員長、川野委員、竹迫委員、中村委員、村田委員</p> <p>【教育委員会事務局】</p> <p>渡辺生涯学習文化財課長、松山生涯学習係長、立本職員、鈴木職員</p>
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者なし)
議題	<p>1 教育委員会事務局から挨拶</p> <p>2 第1回会議録の確定</p> <p>3 指定管理者へのヒアリング</p> <p>4 評価の確定</p> <p>5 総評</p>
決定事項	<p>○横浜市社会教育コーナー選定評価委員会評価の確定</p> <p>○事務局で報告書をまとめ、後日各委員に確認を受ける。</p> <p>○報告書及び議事録の決裁については、委員長に一任とする。</p>
議 事	<p><開会>進行：松山生涯学習係長</p> <p>1 教育委員会事務局より挨拶</p> <p>渡辺生涯学習文化財課長より挨拶</p> <p>2 第1回会議録の確定</p> <p>意見がなかったため、案のとおり第1回の会議録確定</p> <p>3 指定管理者へのヒアリング</p> <p>事務局より進め方についての説明</p> <p>その後、指定管理者より事前質問に対し回答</p> <p>【事前質問回答】</p> <p>I 職員配置・育成</p> <p>問①：研修後には、たとえば「まとめ誌」などの発行はしているか？</p> <p>答①：横浜市の生涯学習・社会教育関係職員研修などでは報告書を作成し教育委員会と共有している。社会教育の専門職員を対象とした社会教育研究会では、報告冊子を作成し、その効果にも言及している。出前研修については、まとめの冊子は作成していないが、社会教育コーナーの報告書に記録として残している。毎月のスタッフ研修については、15分程度の研修でポイントがわかるよう説明している。また、ファイルにまとめ、スタッフがいつでも見返せるようにしている。</p> <p>問②：別紙2の職員の研修について、詳細を知りたい。</p> <p>答②：令和4年度には神奈川県公民館連絡協議会や神奈川県教育委員会主催の研</p>

修会に参加している。8～10名が参加しているものは、法人主催の内部の研修である。

II 施設の管理運営

問③：備品管理カードあるいはラベリングによる管理について、「購入時、使用時」の記述はあるが、「耐用年数」の想定はあるか？

答③：物品管理については購入時にラベルを貼り、品名や番号は備品管理簿で管理している。「耐用年数表」も参考にしながら、壊れたときに都度対応し、新規購入が必要か、破棄するかを検討している。

問④：一部は記述されているが、特に子ども、高齢者世代、障がいのある方への配慮など、どのようにしているか？

答④：乳幼児親子には、対象講座開催時に災害時の対応として「ダンゴムシのポーズ」など、地震発生時に身を守る動作について伝えている。車イス利用者には、緊急時の出入口や導線について伝え、安心して利用いただけるよう声掛けをしている。子どもを対象とした活動では、詳細なヒアリングを行い、誤飲・ケガ・事故を未然に防ぐために、使用する道具や小物をチェックしている。

問⑤：社会教育コーナーで、利用者参加での避難訓練を実施しているか。

答⑤：スタッフ間では避難訓練を実施している。利用者を含めた避難訓練は今後実施していく予定。

問⑥：利用者会議への出席団体が6団体とのことだが、そもそも何団体あるのか？また、利用者アンケートの回答数が202名とあるが、これは利用者の何割にあたるのか。

答⑥：登録団体数は356団体である。アンケートを実施した令和5年11月の利用者は延べ3,806名、団体数は延べ403団体であり、利用者全体の5%の方がアンケートに回答している。

問⑦：インターネットによる利用申込みは、利用者団体にとって利便性があると思う反面、個人情報の漏洩などは十分考えられる。将来的にはどのように考えているか。

答⑦：将来的にはインターネットを活用し、利便性を高めたいと考えている。同時に、個人情報には細心の注意を図り、漏洩や事故のないよう専門業者等に相談し、セキュリティ設定を強化すると共に、職員間のチェックを徹底する等工夫していく。

(有元委員長) I・IIの回答に対し、質問はあるか。

(中村委員) 職員の配置・育成のところ「まとめ誌」があると聞いたが、これは広く公開されているのか。

(指定管理者) 社会教育研究会のまとめの冊子は教育委員会で職員が見られる形式で公開されている。

(有元委員長) 報告書的なものは、実は誰も見ない。原則は、最小の手間で最大の効果だと思う。いらない余計なことは一切やめたほうがいいと思う。たぶ

ん二度と読まれてないと思う。なるべく少ない手間で最大の効果を確保したほうがよい。

(竹迫委員) 利用者会議はそもそもどういう場として設定されているか。本来は 356 団体が来ようと思えば来てもいい場だと思うが、6 団体しか来ていない。どういう目的の会議で、この現状をどうとらえているか。

(指定管理者) 登録団体数は 356 団体あるが、現在利用しているのはそのうち半分ぐらいの団体。いろいろな分野の活動があるが、その分野の代表に来ていただき、話を伺っている。広く皆様に利用者会議があるので参加したい方は申し出てほしいと告知はしていることに加え、窓口では参加への声掛けをしている。

(有元委員長) 竹迫委員のご質問は、参加団体数が少なすぎるということか。

(竹迫委員) この会議の意味があまり伝わってないのか、魅力がないのか。情報交換の場であれば、もっと参加するかと思う。

(指定管理者) 利用者会議とは別に交流会もある。利用者会議は、この施設をよく利用されている方から、こうしたらもっとよくなるのではないかという意見をいただく会議の意味合いもある。そのため、活動テーマの違う団体、各部屋を使用している様々な分野の団体に来てもらうことで幅広く意見をうかがう会議という名目なので 7～8 名としている。窓口でのやり取りなども含め、発言がいただけそうな人に参加をお願いしている。

(川野委員) 利用者会議は、施設側から呼びかけて会議を開くということか。

(指定管理者) そうである。毎年、定期的実施している。

(川野委員) 他の施設の例として、利用者協議会があり、自主的に利用者の側から交流の場や施設に対する呼びかけなど協議会形式で実施しているところもあるが、文句ばかりでありあまり意味がないから実施をやめてしまう例がある。法に基づく設置ではなく、あくまでも自主的なものなので、施設側として受け入れられる要望のみを受け入れるというものの中にはあるから、質問ではないが、利用者とのコミュニケーションを図っていただければスムーズな運営ができると思う。

(指定管理者) 利用者会議では、毎回分野の代表の方を変えて、お話を伺うようにしている。そうすると改善点がでてくるので、私共の事業の改善につながる。

(川野委員) インターネットによる申し込みはまだ実施しておらず、これから考えていくということだが、この点についてネックになるのは、高齢者が多い団体はインターネットを利用できない傾向があると考え、インターネットによる申し込みをストップしているところが多いが、高齢者にとっても案外便利なもの。ぜひインターネットによる申し込みを推進してほしい。利用団体はそれでいいが、参加者をインターネットで受け付けるとなると個人情報問題もあるので、とりあえずは利用者申し込みができるようになるとうよい。

(指定管理者) ネット化、簡素化を検討していきたいと話している。

(有元委員長) 村田委員、ユーザーの立場としていかがか。

(村田委員) 今の申し込み方法で不満はない。インターネットで申し込みができるようになるのであれば、若い人は積極的に使うと思う。

(有元委員長) 他によろしいでしょうか。引き続き、Ⅲ・Ⅳについてお願いします。

Ⅲ 事業の企画・実施

問⑧：生涯学習や社会教育の調査研究について具体的な取組は何か。資料を読む限りでは、横浜市の意向を市の関係職員の研修等に活かすとあるが、社会教育コーナーが独自に他都市などの先進事例の調査を行っているわけではないのか。

答⑧：社会教育研究会において「ファシリテーション」をテーマに講義やグループワーク等を行った。他都市との交流・先進事例の情報収集としては、杉並区社会教育委員会を社会教育コーナーで実施し、更に名古屋市教育委員会事務局生涯学習部（名古屋市地域女性団体連絡協議会等）と意見交換や情報共有を行った。

問⑨：地域づくりや仲間づくりについて、「できなかつたけれど努力してみたこと」、「ぜひチャレンジしてみたいこと」、「今後取り組んでみたいこと」を聞かせてほしい。

答⑨：「努力したができなかつたこと」は、若者にもっと施設を利用してもらうための企画を社会教育実習生と考えたが、日程や年間計画との調整がつかず、実現しなかつたことだ。「チャレンジしてみたいこと」は、イベントの企画段階から若者や企業と関係をつくりながら話し合い、これまで当施設を利用していない層にも利用してもらえる社会教育施設にするということである。「今後取り組みたいこと」は、毎年実施している社会教育士を知る、学ぶという講座受講生やよこはま社会教育士ネットワーク交流会参加者の「実践の場」を作りたいことだ。

問⑩：出前研修は、自主的に手を挙げた区に行く方式か。そうであるならば、手を挙げない、あるいはそもそも意欲がないなどの消極的な市民活動・生涯学習支援センター等への働きかけは何かあるのか。

答⑩：出前研修は教育委員会が行っているため、市職員から声をかけて打診・調整してもらっている。

問⑪：大学から社会教育実習生を何名受け入れているか。また今後は、ますます若者の社会参加は重要な課題になると思うが、社会教育コーナーとしてのビジョンを聞きたい。

答⑪：年間1～2名の受け入れ実績である。実習時間が30～40時間と長いため、受け入れ体制にも制限がある。実習希望者とは面談を行い、主体的かつ学ぶ意欲の高い学生を受け入れている。若者の社会参加につながるような講座の企画、実施、ふり返りまでをサポートしたいと考えている。

問⑫：実習生受入れの負担感はあるか。若者の社会参加という観点から、勤労青年、有職青年の参加はあるか。

答⑫：実習生の受け入れは40時間と長く、更に大学では学ぶことのできない体験をしてもらうことを考えるため負担感はある。できれば事前に担当の教員と一度相談などができると良いと考えている。勤労青年、有職青年の参加はないが、通信教育や社会人大学生の実習は受け入れた。

問⑬：社会教育士について紹介する講座というのは理解されているか。また社会教育関係職員といった場合、図書館や博物館、スポーツ関係職員や保健師などからの相談事業もあるか。

答⑬：社会教育士を知る、学ぶという講座について、社会教育士自体まだよく知られていないため受講者を集めるのに苦労しているが、自治会町内会でスポーツの推進をしている方や看護師、保育士なども講座に参加していることから、社会教育士に関心を持っている方がいることがわかる。磯子図書館とは連携し、情報を提供している。

IV 収支状況

問⑭：予算と決算に差異がある項目について、消耗品、印刷製本代、通信費、清掃費が予算よりも増加している。物価高騰、時給アップ以外に、これらの経費が増加した理由を聞きたい。また新規利用について、直近の実績として「切り絵」「健康麻雀」の新たな会の立ち上がった記載があるが、「健康麻雀」の実施に当たり、新たな器具備品等の購入の準備は必要か。また、この予算は、当初予算に含まれているか。

答⑭：消耗品については、破損によるレジスターの購入52,500円、破損及び新規設置のための2個の時計購入15,470円、事務室掃除機購入28,999円により、経費が増加した。印刷製本代については、物価高騰が続く中、3月にプリンターのトナーインク38,892円、マスター用紙やインク22,440円を購入したことで、予算を超える支出となった。通信費については、前年度の年間額と同額で見込み予算を立てたが、前年度の事業開始当初の経費が低かった分、一年間の経費に差が生じた。今後は収支の把握とともに、予算立ての精度を上げる。「健康マージャン」の器具備品は、法人所有のものを使用し、かつ麻雀牌など足りない器具は現物を寄付してもらったため、社会教育コーナーの経費で購入したものはない。当初予算にも含んでいない。

(有元委員長) ありがとうございます。それでは委員の皆様から3と4の 카테고리 についてのご質問をお願いします。

(川野委員) 経営状況に直接反映されるものではないが、アンケートを見ると、ずいぶん要望がでてるのがテニスコートについて。設備の関係などで使いたくても使えない方もいるようだ。他にもトレーニングルームも冬は冷たいとか、トイレの改善などそういった施設整備にかかわるものについての経理負担が指定管理者としても大変だと思う。こういう場合は努力してもらえないかな。聞きたいのは、地域外の利用者について、9時閉館についての苦情はこないのか。地域の公民館は10時閉館が多い。夜間利用は少ないようだが利用時間帯の苦情はないか。

(指定管理者) 苦情はなし。感染症の影響で夜間利用もすごく減っている。トイレについては温便座に整備済みである。テニスコートは全面を直すのは見積もりを出してもらって非常にお金がかかることが分かったので、最低限の安価でできる方法を工夫し整備しているとともに、職員自らペンキを塗るなど努力して、使いやすいように工夫をしている。

(川野委員) 何百万円かかかってでも整備して、利用料を値上げするというのはあるか。

(指定管理者) その点については市と協議が必要。指定管理者として整備するには、30万円の予算の範囲内で軽微なものは実施するが、色々な箇所に修繕が必要なので、テニスコートの整備が300万円となると市と話し合いになる。

(川野委員) テニスコートの利用料はいくらか。

(指定管理者) テニスコートは平日2時間で700円、土日が1,100円となっている。

(川野委員) 他のスポーツ施設より安い。何百万が、イコール、ペイできるわけではないが、利用料で調整するなど、これも市との話し合いになるようだ。

(指定管理者) もともとテニスコートを目的とした大きさではないので、後ろが狭くボールが出てしまう。もとは広場、運動場である。

(有元委員長) 実習生受け入れの負担感とあるが、大学側は当該施設に迷惑がかからないようにしているはずではないか。いずれにしろ、現場に負担感があるような実習は良くない。

(指定管理者) 大学側のご準備の内容が私共に伝わらない。実習前にこういう内容を勉強してきたということがわかると、もっとやりやすい。今後連絡を取っていきたい。

(竹迫委員) 他都市の方が見学にいらしたことについて、名古屋市視察は、どのようにつながったのか。インターネットで情報を見てきたのか。

(指定管理者) 市の教育委員会事務局に連絡があつてつないでいただいた。私共も運営が女性の団体なので、団体としても興味があつたようだ。

(竹迫委員) それは、社会教育というワードに興味をもたれたのか。

(指定管理者) 名古屋市から横浜市に見学の要請があり、男女共同参画センターの見学などもあつたようだが、その一環として横浜市社会教育コーナーと指定管理者であるNPO法人夢コミネットの活動に関心を持っていただいたようだ。横浜は昔から女性教育があつたのでそこに関心をもたれたのではないか。

(有元委員長) このあと、事前質問以外に質問する時間も取っております。では、事前質問についてご回答いただきありがとうございます。続いて、質問表以外にも指定管理者にヒアリングを行います。まずはIの職員配置・育成についてご質問があればお願いします。

(有元委員長) 職員研修はどのような時間に行ってらっしゃるのか。

(指定管理者) 月に1度休館日があり、その日に職員が全員集まるので、ミーティングと研修を行っている。

(中村委員) 参加されている人数は全員ではないと思うが、参加した職員が参加していない職員にフィードバックすることは、何らかの方法で実施しているか。

(指定管理者) 定例会時に、研修に参加した職員から話してもらっている。

(有元委員長) 他はいかがですか。よろしければⅡの施設の管理運営についてご質問があればお願いします。

(川野委員) 災害時、一時的には広場に逃げるようにすると思うが、古い建物なので倒壊の恐れがある。障害者や高齢者が広いところに一旦避難したあと、二次的な避難が必要になると思うが、その点はどうか。

(指定管理者) 隣の磯子区役所に行く。洪水や浸水の可能性もあるが、あわせて区役所に行くこととしている。

(有元委員長) ここは、水が出たことはあるか。

(指定管理者) 今のところはない。

(村田委員) 定期的に施設を利用しているが、防災について団体独自のマニュアルを作成する際に指定管理者へ相談したら、すぐに対応をしてくれたし、アドバイスもいただいた。対応がよかったので感謝している。

(有元委員長) 次はⅢの事業の企画・実施についてご質問があればお願いします。

(川野委員) 子どもたちも含め若者たちの利用を促進したいという考えをお持ちだが、横浜市は小中学校すべてコミュニティスクールに指定されている。磯子のコミュニティスクールについてはいかがか。

(指定管理者) 全市についても、磯子についても、全てではない。

(川野委員) コミュニティスクールや社会教育コーナーは教育委員会の事業であるし、文部科学省もコミュニティスクールには予算をたくさんつけ力を入れているので、ぜひ連携事業をやってほしい。子どもたちが地域を学習することは重要なテーマだし、子どもはいずれ若者になり成人になっていくので、下慣らしというか、できればコミュニティスクールとの連携事業を考えてほしい。

(指定管理者) 磯子区の学校地域連携の部署とつながり、地域コーディネーターを集めて継続的に会議を実施し、コーディネーターの活動の情報共有や相談対応など行っている。

(川野委員) 海外からの子どもたちを集めている学校の取組もいいことだと思う。

(有元委員長) 他にありますか。では最後にⅣの収支状況についてご質問があればお願いします。

(中村委員) 全ての予算を多めに組むのも限度があるため、その中で予算と実績をいかにバランスよくするかというのが非常に難しい。今の状況下では全てのものが変わってきていて、様々なことに関しての負担が増えてきている。なおかつ、建物の老朽化に対する支出もあるかと、とても苦労しているのが書類を見ても分かる。予算を組むときに、最低限こういう費用は守りたい、取らなければならないなどのベースになる考え方は何か。前年の数字を見てやるのか、要望を聞いて反映させるのか、両方

なのか、どこに焦点を合わせて予算を考えるか。考えの基本があれば教えてほしい。

(指定管理者) 現在2年目が終わったところであり、予算を立てたのが3回目である。その中で必ず予算として組まなければならない人件費、電気代などの管理運営費はきっちり押さえている。そうすると事業費が小さくなってしまふ。人件費などの必要経費を乗せた上で、事業費を乗せようとすると、努力しても難しく、利用料を増やす必要が生じる。感染症がもう少し収まれば活動が活発になるのではという予想を立てたが、それほど収入は伸びなかった。ご質問の回答としては、まず運営に必要なものを押さえた上で、やるべきこと、やりたいことを予算に乗せている。

(有元委員長) 他にいかがでしょうか。その他全体を通して聞き忘れたことなどありませんか。

(竹迫委員) スタッフがどういう役割分担なのか知りたい。例えば、研修担当などがあるのか。年間の職員研修の計画を立てて実施する担当や、外部との連携を作り出す担当など、職員の体制を知りたい。

(指定管理者) 職員の研修は1人が担当し、年間スケジュールを作り進めている。役割分担としては、3人が外部との対応や専門的なところは社会教育士として応えている。一方で、窓口での日常的な対応、けがなども含め利用者対応は他のスタッフといったように、責任者と役割を分けている。2年間の管理運営の中で、スタッフも慣れてきたので、これまでは市民の皆様に使っていただくことがメインだったが、今後は利用者に主体的に動いて参加してもらい、担い手になっていくという社会教育の視点を取り入れて、利用者に伝えられるようになる研修をしていきたいと思う。

(有元委員長) 館内の危機管理対策はどうか。

(指定管理者) 一番気になるのは廊下や更衣室が暗い点だ。そこへ防犯カメラやフラッシュライトを設置している。更に、スタッフがトイレに行く際には必ず館内を循環するというルールを決め、現在はお金がかからない工夫をして、防犯対策として入口で声をかけることにしている。以前、利用者でない方が髪を洗っていたこともあり、入口で声をかけることですぐ対応できるようになっている。子どもたちには、入館やトイレ使用时には必ず声かけてねと伝えるなど、管理運営側、利用者側双方できちんと行っている。

(有元委員長) 今後、これまで起きなかったことが起こるということも考え、注意したほうがいいと思う。

(指定管理者) 社会や地域が変わってきているので、その点については感度を高くしていきたい。私共は法人として、いそご多文化共生ラウンジも運営をしているので、その運営を通じて警察とも連携をとっている。

(有元委員長) 交番は近いのか。

(指定管理者) はい。

(有元委員長) それは安心材料である。館内の張り紙について、フォントが小さく、かつ日本語で書いてある。今はイラストが一般的かと思う。市民対応についても具体的な事例やどう話を伺えば収まるのかなどの接遇研修も必要では。起きてないことが起きるので。

(指定管理者) ありがとうございます。

(中村委員) 防犯について、研修室等のガラス戸は必ずカギをかけて人の出入りを制限しているのか。それとも、防犯の意味も兼ねて、普段は開いているが、閉館時に閉めるなどの対応か。

(指定管理者) 常時閉めている。

(有元委員長) 他に質問がないようでしたら、以上でヒアリングは終了します。ありがとうございます。指定管理者にはここでご退出いただきます。

【指定管理者退席】

(有元委員長) それでは、今のヒアリングを踏まえて、それぞれ評価を確定していただきたい。

4 評価の確定作業

質疑応答を踏まえ、各評価項目の確定を行った。

5 総評

(川野委員) 指定管理者の責任の範囲において、着実に実施していると私は判断した。若干気になる点は先ほど議論させてもらった。地域の情報を的確に把握し、日常業務に生かしていると思う。また、市の提示する目標設定ともそれほど相違はない。目標を意識しながら、市民サービスの提供に努めるという配慮が感じられた。指定管理者の自己評価は非常に堅実であり、全体的に指定管理者としては高い水準にあると感じた。

(竹迫委員) 自主事業を自分たちで考えて展開しているところを評価したい。様々なノウハウを持った指定管理者なので、これから何かやってみたいという個人や市民団体にそれらのノウハウを伝えていながら、市民団体の事業を実現するための伴走支援の役割について、もっと注力してもいいかと思う。先ほどのヒアリングの中で、これからは皆でここを作っていく、ここの運営自体にもっと利用者を巻き込むという趣旨の発言があったが、それが非常に大事だと思う。現在の利用者会議を抜本的に考え直して、新しい形で、皆で使って皆で支えるという、そうしたポリシーのある拠点にぜひ大きく前進させてほしいと感じる。

(中村委員) この数年、感染症の影響による利用者の減少や、あるいは少しずつ利用が回復している中、研修、会議など利用を増やそうという前向きな運営を検討しているのが評価に値する。ただ評価と実際の比較など、

	<p>どうやって今後更に良いものに結びつけていくのかまだまだ模索しているところかと思われる。地域の皆さんが、利用者と一緒になっていくことで、良いものを吸収し自らも与えていくような相乗効果によって、運営がより素晴らしいものになっていってほしいと思う。</p> <p>(村田委員) 指定管理者の法人が磯子区に法人の本部を持っていることがあることが強みだと思う。人づくり、つながりづくり、地域づくりの力を持っている団体なので、連携や交流に生かしていければより良いものになると思う。人材育成やグループ研修も情報交換してつながりを広げていけると思う。利用者が増えないことについては、市民が施設を知らないという印象がすごくある。「社会教育コーナー」という固い名称がついているので、何の施設か分からないというのがある。施設の周知、広報にもう少し力を入れてもいいと感じた。指定管理者は非常に努力している、いろいろなところに目が向いている印象があるので、これからもより良い運営をしていけるのではと思う。</p> <p>(有元委員長) 中間評価の数値の読み方だが、5つにわけて考えるのは、重さや速さなどとは別の感覚で、人間のやっていることなので、自己評価はひとつの「ヘルプ」、助けてくれということだと思う。委員の評価は「応援したい」という気持ちのところである。これらの評価が意味のある数値、事実を反映しているものと思ったら大間違いであるということ、心理学者としてはお伝えしたい。大学では授業評価の低いものはこの授業は改善してくれという学生のヘルプと解釈する。今回の評価も同様に捉えた方がいいと思う。あとは、まだ起きていないことに備える必要がある。スタッフの皆さんはがんばっていらっしゃるので、最小の手間、例えばアリバイ的な報告書は排して、なるべく効果のあることを優先するべきである。</p> <p>【今後の予定】 事務局において議事録及び評価報告書をまとめ、各委員に確認を受ける。 議事録と評価報告書の決裁は委員長に一任とする。</p> <p>【閉会】</p>
配布資料	<p>【資料1】 横浜市社会教育コーナー第1回指定管理者選定評価委員会会議録</p> <p>【資料2】 質問一覧表</p> <p>【資料3】 評価報告書（案）</p>